

## 分科会A 北東アジア・シームレス物流

分科会Aの参加者は約100名であった。分科会タイトルにある「シームレス」というのは「継ぎ目のない」という意味だ。一般に、荷送人・生産者から荷受人・消費者までの物流のプロセスでは、貨物の輸送が止まる「不連続点」が存在する。例えば、鉄道から船へといった異なる輸送モード間の積み替えや、国境での通関検査などだ。こうした不連続が無い状態が「シームレス物流」が実現した状態である。現実には完全なシームレスを実現するのは困難だが、できるだけそれに近づいていくためにはどうすればよいかを探るのが本セッションの目的だ。

全部で4つの報告のうち、2つは多国間協力にかかわる国際機関の立場からの報告であり、残りの2つではコンテナを利用した国際複合一貫輸送の事例を紹介した。

UNDP大図們江イニシアチブ事務局のナタリア・ヤチェイストワ事務局長は、大図們江イニシアチブ（略称：GTI）の枠内での運輸分野における活動内容を紹介した。GTIでは、運輸部門を5つの重要分野のうちの一つと位置付けている。運輸部門での協力を推進するために設立された「GTI運輸部会」は、第1回会合を2010年7月に開催する予定だ。「GTI運輸ワークショップ（2009年12月、琿春市）」においては、法制度や手続きの簡素化や北東アジアの運輸部門での地域協力を進めることの重要性が共有された。

アジア開発銀行研究所（略称：ADB）のビスワ・バタチャリア所長特別顧問は、ADBが行った「シームレスアジアのためのインフラ」整備にかかわる研究成果を報告した。同研究では、2020年までのアジアにおける地域インフラ（「ハードインフラ」、「ソフトインフラ」をともに含む）を研究対象とした。2010年～2020年に、アジアの交通、通信、エネルギー分野のインフラ整備のため、毎年7,500億ドルの投資が必要であるということなどが明らかになった。また、投資の優先付けや政策調整のための汎アジアインフラ戦略を持つ必要があることなどを結論とした。

日本貨物鉄道株式会社（JR貨物）国際物流開発部の池田部長代理は、JR貨物が展開している鉄道コンテナを利用した国際物流ビジネスを紹介した。同社では、12ftコンテナを利用して、日中間、日韓間で高速サービスを提供している。このうち、日韓間のサービスでは、両国国内で鉄道輸送を行う「Rail-Sea-Rail」サービスも提供している。12ftコンテナが国際規格でないことが、多国間へのサービス拡大の障害である。

ERINAの辻研究員は、シベリア鉄道を利用した国際コンテナ輸送の最新の状況や課題などを紹介した。2009年のシベリア鉄道コンテナ輸送は半減したと推測される。このルートが抱える課題は、価格競争力が低いこと、関係者の連携の改善が必要であること、日本からの航路の頻度が低いことである。今後注目されるのは、中国とロシアの鉄道を結んだコンテナ輸送やトイツイア湾港などロシア極東の港湾に陸揚げした完成車の鉄道輸送である。

4つの報告の後、「ソフトのインフラ整備」について議論した。ソフトインフラというのは、法制度や商習慣、さらに物流サービスを提供する企業や関係する政府機関などである。北東アジア各国ではハードインフラの整備がかなり進んできている一方、ソフトインフラ面での制約のためにシームレス物流の実現が妨げられる場面が目立ってきている。例えば、通関の際の手続きが複雑なため、時間がかかったり、コストがかかったりするケースがある。

4名の報告者からも指摘があったように、ソフトインフラの整備が不十分であるという問題意識は広く共有されているとあってよい。しかし、ソフトインフラ整備は容易ではない。ハードインフラは資金提供があれば進展するが、ソフトインフラ整備は巨額の資金を要しない代わりに、時間と労力を要するからだ。多くの関係者の利害が複雑に絡むことが問題だ。

そこで、多国間協力の枠組みを使って高いレベルでのコミットメントを引き出し、これを弾みとしてソフトインフラ整備を進めようとの考え方が出てくる。バタチャリア氏は、大メコン圏（GMS）の例を基にして、公式な枠組みの重要性を指摘した。ヤチェイストワ氏は、GTIの枠組みの中で、さまざまな課題について議論することができる旨を述べた。

他方、多国間協力プロセスは非効率になりやすいという本質的な欠陥を持っている。参加する関係者の数が多くなると、その分、利害関係が複雑になり、結論を得るまでの時間がかかる、得られた結論が空疎なものになるといった問題が顕在化する。

重要なのは、いかに非効率を排除するかである。高いレベルでの明確なビジョンの共有が必要だ。同時に、既存の枠組みを最大限に活用して、新たな運営コストや管理コストが発生するのを避けることも有効だろう。昨年この会議でも強調されたように、GTIは北東アジア・シームレス物流の推進のための重要なプラットフォームであり、その活用を真剣に考えていくべきである。